

復刻版地図帳の意義 —地域区分と地域の配列の変化—

京都大学教授 金坂清則



「地理や地図帳は現在のことを学ぶものと思っていたけれど、これを見比べていると、いろんな変化がわかって面白い」—このたび、帝国書院から復刻された地図帳を見る人が異口同音に口にす言葉である。そう！ ここには「激動の昭和」の3つの時期の「現在」が表現されているが、それだけではない。全冊合わせると「激動の昭和」の「歴史地図帳」として見ることもできるのである。

1 時代とともに変わる地域区分と地域の配列

歴史における時代区分に似て、地理の学習にとって最も大切なことである地域区分の仕方にも変化がみられる。本稿ではこの点をめぐって述べてみよう。こう書くと、大学で地理学を専攻しなかった先生だけでなく地理学を専攻した先生もきっと驚かれると思う。「地域区分の仕方なんて決まったものである」との理解が一般的なためである。

私も、地理の教科書や地図帳で日本が九州地方から始まり、順次北東に向かい北海道地方に終わっているのは、日本列島がユーラシア大陸の東に沿って弓状に連なっていることによるのだろうと永らく考えていた。もしそうだとすると、第二次世界大戦以前には、九州地方ではなく台湾から始まっていたことになる。

だが事実は違う。昭和9年版『新選詳圖 帝國之部』では、関東地方を筆頭とし、以下、奥羽地方、本州中部地方、近畿地方、中国・四国地方、九州地方、台湾地方、北海道地方、樺太地方、朝鮮地方、我が南洋諸島、満州国・関東州という順に配列されている。なぜか。日本という国家を地方に区分する、地域区分の論理が今とは違っていたの

である。

2 敗戦によって変わった地方別地域区分

これらの「地方」は、大日本帝国という全体を構成するいわば付属肢として位置づけられたのである。そのために、筆頭の地位は、帝国の首都すなわち帝都である東京のある関東地方が占めるべきだと考えられたのである。元来は国家だった朝鮮さえも朝鮮地方と呼んでいる点に、また、上記したような、中心から周辺に向かって順次広がっていくという構成＝配列順をとっている点に留意しなければならない。それは、日本が領土を拡張していった経過を反映するものでもあった。

日本を地方に区分する地方別地域区分は、元来は帝国主義的国家観に基づく区分として出発したのである。そして、昭和25年版やそれ以降の地図帳が昭和9年版とはまったく異なり、九州地方から始まる配列をとったのは、敗戦によってそれまでの根拠が瓦解し、それにかわるものとして、日本列島の形状と地理的位置が新たな根拠として採用された結果にすぎないのである。

ただ、調べた限り、このことはどこにも明記されてはいない。過去を全面否定したのだから、そんなことを明示する必要などないと考えられたのであろうか。しかし今となっては、この変化の理由を知っておくことは決して無駄ではないだろう。

3 世界の地域区分と配列—その論理と変化

では、世界についてはどうなのだろう。現在は東アジア、東南アジア、南・西アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ロシア連邦とその周辺、北アメリカ、

南アメリカ、オセアニアとなっている。これに対し『新選詳圖 世界之部』では、「我が南洋諸島」を含む大洋州から始め、以下、アフリカ州、南アメリカ州、北アメリカ州、ヨーロッパ州と展開した後、アジア州に至り、それも西端の小アジア（トルコ）からインド・東南アジアを経て現在の中国に移り、最後は満州国および関東州で終わる配列になっている。満州と関東州は帝国主義国家としての日本が世界と斬り結ぶ地域であった。

現在の区分とその配列は復刻版地図帳の1つである昭和47年版と同じであるだけでなく、昭和25年版ですでにほぼ同じになっている。世界の地域区分の配列も第二次大戦を機に一変し、その後これが踏襲されてきたのである。つまり、日本についてと同じことが、世界についても当てはまるのである。そして、その理由については、やはりこれまで明示されてはこなかった。

以上示したように、地域区分は決して絶対的・不変なものではない。地域区分を行う側が、世界や日本という全体とその部分をどのように捉えるかということの反映であり、それ故、考え方の変化によって変わり得るものなのである。

4 地方別区分の誕生・成立 —畿道別区分が生き続けた事情

では、地方を単位とする日本の地域区分はいつ始まったのか。明治31～32年の中学校地理教科書からである。そして、同36年の第一期国定地理教科書『小学地理』がこの立場に立ったことが決定的だった。それまでは古代以来の五畿七道の区分を踏襲し、これに北海道を加えて五畿八道とした畿道別区分が用いられ続けた。これは理屈としては不自然なことだった。なぜなら、この区分は都が京都にあることを前提とした区分であり、都が明治2年に東京に移り、その2年後に廃藩置県が行われて県が誕生したからには、改まってもよいはずのものだった。しかし現実にはその後30年以

上も旧来の区分が地理の中で教えられ続けた。

これには、廃止されたのが藩であり国ではなかったことや、旧来の区分が社会に深く定着していたことだけでなく、地方別区分の基礎をなす府県が明治21年まで定まらず、その画定も遅れたために府県界が国界に代わって地図上に表示される時期も遅れたという理由があった。

つまり、『新編 中学校社会科地図 最新版』に出ている五畿七道の区分は、近代国家の誕生によって消滅したのではなく、その後30年以上も学校教育の現場で用いられ続けた区分であった。それが地方別区分に改められたのは、日清戦争で日本が勝ったために台湾が明治28年日本の領土となり、畿道別区分でカバーできる範囲との乖離が決定的になったためだった。

5 おわりに

以上述べたことを、教える側も教えられる側も知っているのと知らないのとでは、地理というものに対する見方が異なってくるのではないかと。地理が単なる暗記ものなのではないことを、生徒に実感させるうえでも、興味深い話になるのではないかと。

ここで述べた、地域区分の変化という事実が何によるものかは筆者の考えである。しかし明示されていないからといってそれを考えようとせず、当然のように受け入れることから始め、覚える、あるいは覚えさせるのではだめである。

近畿地方や本州中部地方の誕生やその地名の由来、三重県が近畿地方に含められた理由も併せて以上のようなことを話した時の、学生や一般の人人の反応の強さには驚くばかりである。なぜ？という気持ちを生徒が地理の学習で少しでもたくさん持てるようにする。このことは地理を評価し好きになる生徒を育てるうえできわめて大切なことである。この復刻版地図帳にはその素材がぎっしりと詰まっている。